

『あたりまえの生活と税』

村上市立山北中学校 3年
加藤 芹菜 さん

私はこれまでの生活の中で税金とは国を支えるため、必要不可欠だと考えていました。実際、そうである事は事実で、毎日あたりまえのように通っている道路や病院など色々なことに使われているためなくなってしまうと困るのは私たち国民です。以前までの私はこのように税金について関心は持っていたものの、深く考えたことはありませんでした。

しかし、私が母にお酒を少し控えるように言った時母に「これも国のためになっているから」と言われました。その時は私も渋々納得したのですが後々私たちと関係のある税金について調べてみたら現在、酒税は国税全体に対し約2%ほどと、ピーク時と比べかなり減少していることが分かりました。さらに母が良く飲むビールは、2018年、酒税法改正により、減税されています。例を上げると、小売価格355円ほどのビールにかかる酒税額は139円ほどで酒税等負担率は46円ほどとなって



いました。日本酒と比較すると負担率も 2.5 倍ほどとなっています。酒税が国に貢献されている割合は全体の 2%とあまり多くなく、負担率が高いので母の言うように国のためになっているからと言ってお酒を買いすぎることは、家庭の経済的にも良くないと思いますし、飲みすぎることにより、将来、病気にかかるリスクも上がり、その際の医療費にかかる税金のことを考えると、結果的には国に貢献できている税金よりも私たちが使用している税金のほうが圧倒的に上回るので良いこととは言えないと思いました。母にこのことを話したらお酒を控えるようになったので良かったです。もちろん酒税以外にも私たちが関わる税はたくさんあるので、このようなことがすべてとは言わずに今後は色々な税金について詳しく調べていく必要があると思いました。

このことなどをふまえたら、以前のようにあたりまえだと思わず、税金について深く考えてみようと思います。そして、私たち国民の生活がより豊かになるよう、効率良く税金と関わっていけるようにしたいと思いました。

